

北九州市保健環境研究所報

第 45 号
(平成29年度)

北九州市保健環境研究所



北九州市民憲章

わたしたちのまち北九州市は、美しい自然に恵まれ、ながい歴史とたくましい産業をうけついできました。

わたしたち北九州市民は、このまちを愛し、よりいっそうの市民参加によるまちづくりをめざしています。

このふるさとに、実りある未来を築くため、わたしたちは、みんなで守る約束を定めます。

緑を豊かに 清潔で美しいまちにします

きまりを守り 安全なまちにします

人を大切にし ふれあいの輪をひろげます

元気で働き 明るい家庭をつくります

学ぶ楽しさを深め 文化のかおるまちにします

はじめに

保健環境研究所報第45号の発刊にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

本研究所は、平成29年4月に保健福祉局保健環境研究所として新たなスタートを切りました。平成30年4月には、中央卸売市場内にありました食品衛生検査所が所内に移転を完了し、職員が一丸となって、試験検査や調査研究に取り組んでいます。

社会医学である公衆衛生の一翼を担う保健環境研究所は、常に社会情勢に気を配っておく必要があると考えています。

昨年は、福岡県でも特別警報（大雨）が発令され、自然災害の多い年でありました。西日本豪雨時にダムからの緊急放流、台風21号による関西空港の孤立、北海道胆振東部地震直後の大規模停電（ブラックアウト）等、改めて自然の脅威を感じる年でありました。

研究所がスタートしたのは、門司・小倉・若松・八幡・戸畑の5市が合併した直後の昭和40年6月でした。当時は、高度経済成長に伴う重化学工業の急速な発展により引き起こされた健康被害が大きな社会問題となった時代であり、本市も例外ではありませんでした。それから50年が経過し、社会的な関心も公害問題から環境問題にシフトしてきています。これに伴い、研究所の役割も自治体で解決できる地域レベルの問題から国境を越えた地球規模へと変化してきています。

特に、近年、検査件数が増加している感染症は、昨年、沖縄で麻疹が、関東地方で風しんが流行するなど、健康危機管理における地方衛生研究所の科学的、技術的な拠点として役割が要求されています。

本研究所の施設は、耐震・外壁工事を施工した築後40年を超える古い建物ではありますが、分析・検査技術や機器等は更新に努め、保健衛生や環境行政において信頼される情報を発信してまいりたいと考えています。

今後も、皆様の一層のご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成31年2月

北九州市保健環境研究所
所長 田中 隆信

目 次

第1	沿革・組織及び概要	
1	沿革	1
2	組織	1
3	検査件数	2
4	予算・決算概要	3
5	分析機器整備状況	4
6	庁舎配置図	5
第2	業務内容	
1	試験検査等	
	環境部門	6
	衛生化学部門	10
	微生物部門	17
	食品衛生検査所	22
2	調査研究	26
3	その他	30
第3	講演発表	
	・PM _{2.5} 成分分析結果～北九州市での特徴について～	32
	・クレオソート油を含有する家庭用木材防腐剤に含有する ジベンゾ[a,h]アントラセン等試験法の改良	36
	・巻貝食中毒事件発生！ ～理化学試験の現場から～	38
	・北九州市内で検出されたノロウイルスの遺伝子型について	40
	・食品からのサポウイルス検出法の検討	42
	・循環式公衆浴場におけるレジオネラ属菌の定着性について	46